Take a rappa
ラッパを手にとれ
かき鳴らせ
Take harappa
さぁ、はらっぱに
出かけよう
Session & Clapping
竹原中心市街地地区
まちづくりビジョン
Session City 竹原
～新たな活動が始まり、
新たな価値を創造するまちへ～
新開地区周辺
DOG RUN
新しい公園
検討中
竹原市役所
2025年1月
移転リニューアル
竹原市役所周辺
新たな複合施設
PJ進行中
町並み保存地区周辺
歴史民俗資料館
優先検討中
町並み保存センター
旧光本家住宅
旧吉井家住宅
旧上吉井家住宅
優先検討中
旧岩本部「RIG HOUSE」
2023年から
運用開始
旧松阪家住宅
優先検討中
NIPPONIA KIKKO 棟
NIPPONIA HOTEI 棟
NIPPONIA MOSO 棟
旧森川家住宅「NIPPONIA」
2024年から
運用開始
道の駅
竹原港
観光まちづくり法人
竹原DMO設立
コワーキングスペース
SOLFIL
2024年9月から
オープン
Shared office
Challenge Shop
Mio Cafe
TAKEHARA
2023年から
運用開始
sharekitchen
竹原駅周辺
竹原駅
駅の更なる活用
PJ進行中

目次

1 はじめに ---------- 2

まちづくりビジョン策定の背景・目的
中心市街地地区の施設立地状況

2 中心市街地地区のこれまでと潜在力 ---------- 4

統計でみる中心市街地地区
中心市街地地区での取組
竹原に暮らす人の想い

3 中心市街地の目指す姿 ---------- 14

まちづくりの体系
将来のまちづくりの方向性
　竹原市役所周辺エリア
　竹原駅周辺エリア
　町並み保存地区周辺エリア
　新開地区周辺エリア
中心市街地地区の回遊性向上に向けた取組事例
中心市街地地区重点プロジェクトマップ
周辺地域との連携
たけはらっぱ［竹原みらい地図］

4 ビジョンの実現に向けて ---------- 30

官民連携による推進の考え方
今後の推進体制
ビジョンの実現に向けたロードマップ

Ⅰ. はじめに

■まちづくりビジョン策定の背景と目的

本市は、急速な少子高齢化と本格的な人口減少等、社会経済情勢が大きく変化する中においても、人々の地域資源を活かしたまちづくりを行うことにより、賑わいや活力を維持・向上させるため、第6次竹原市総合計画において「元気と笑顔が織りなす暮らし誇らし、竹原市。」を将来都市像に掲げ、様々な取組を進めています。

竹原駅を中心とした中心市街地は、商業・医療・子育て・交通等の多種多様な**生活利便施設がコンパクトに集積**しており、本市にとって重要な拠点となっています。また、町並み保存地区（重要伝統的建造物群保存地区）では、伝統的なまちなみを保全しつつ、町家を宿泊施設として活用するなど、生活と観光が融合したまちづくりを行っています。一方、公共施設の老朽化、大型商業施設の撤退、空き家・空き店舗の増加、公共交通の利便性低下など、様々な課題を抱えています。

これらの中心市街地の魅力を活かし、厳しい社会情勢に対応するため、**都市機能や居住機能を一定の区域内に誘導**し、人口密度を維持することにより、**持続可能な都市経営を可能とする「コンパクトシティ」の実現**に向けたまちづくりに取り組んでいます。また、新たな活力を生み出すために、地域資源を活用したスタートアップ支援や創業支援の取組を進めることにより、**若者や移住者の定住を促進**し、地域の課題解決型ビジネスを生み出すなど、様々な施策を通じて、**中心市街地を魅力ある活力の拠点として再生**することを目指しています。

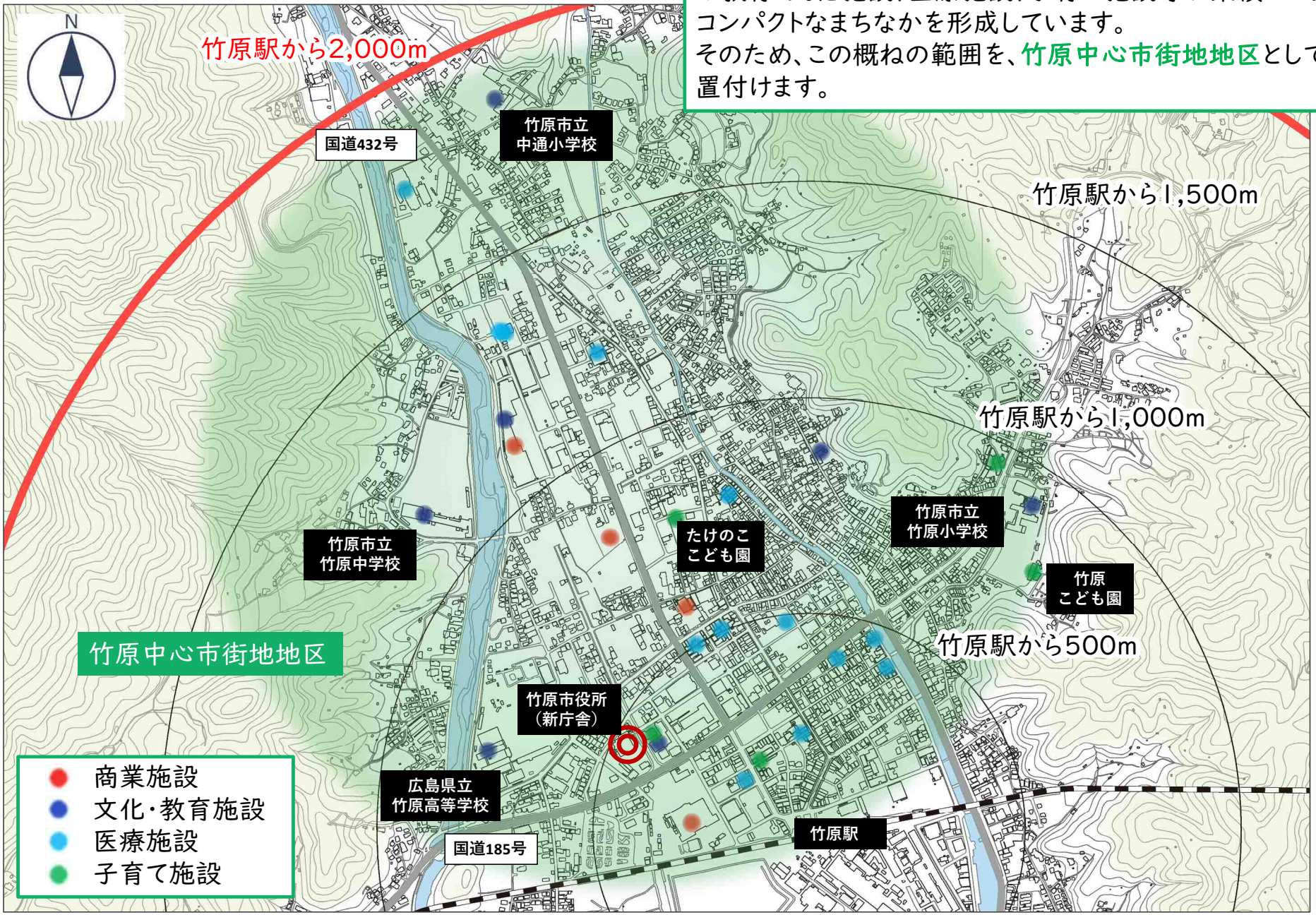
特に、庁舎移転後の跡地を中心とした区域においては、老朽化・分散化した公共施設を集約化し、**図書館や地域交流、子育て支援等の機能を有した複合施設の整備**を検討しており、乳幼児から高齢者までの多世代にわたる市民の日常的な居場所や小さな出会い・交流が多く生まれる場所となることが望まれるなど、第6次竹原市総合計画の将来像やコンパクトシティの実現に向けた重要な取組であると考えています。

これらの背景を踏まえつつ、中心市街地の将来像を明確にし、市民・事業者・行政等の様々なステークホルダーが将来像実現のために戦略的に取り組むことによって、**相乗効果を最大限発揮することを目的**として、まちづくりビジョンを策定します。

Ⅰ. はじめに

■中心市街地地区の施設立地状況

中心市街地地区は竹原駅より概ね2,000m以内に商業施設や教育・文化施設、医療施設、子育て施設等が集積しており、コンパクトなまちなかを形成しています。
そのため、この概ねの範囲を、**竹原中心市街地地区**として位置付けます。



2. 中心市街地地区のこれまでと潜在力

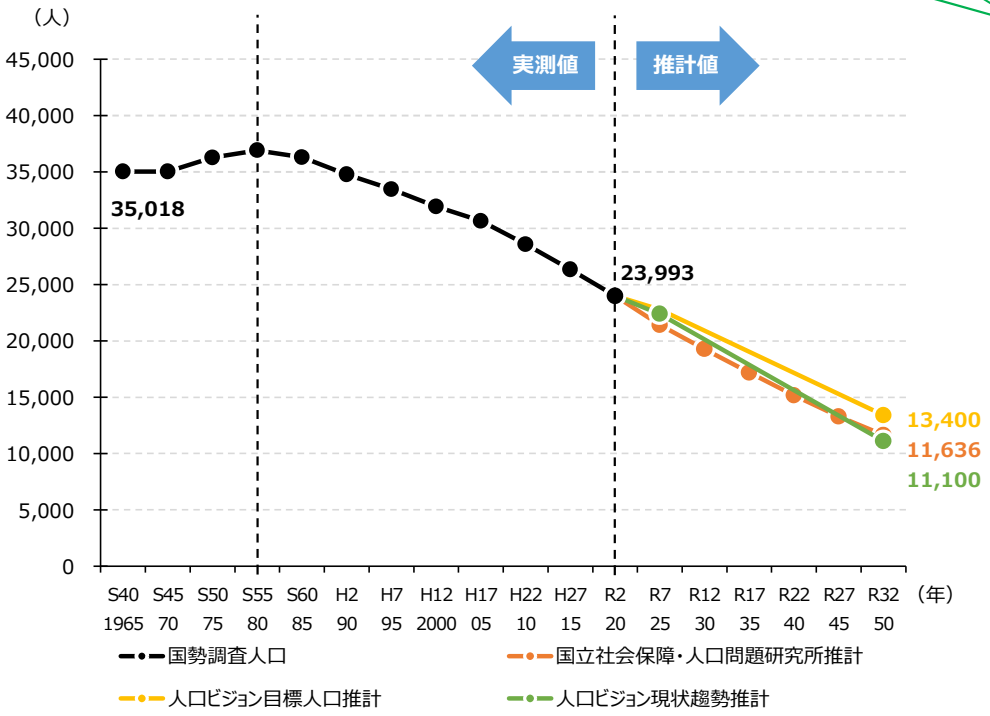
■統計で見る中心市街地地区

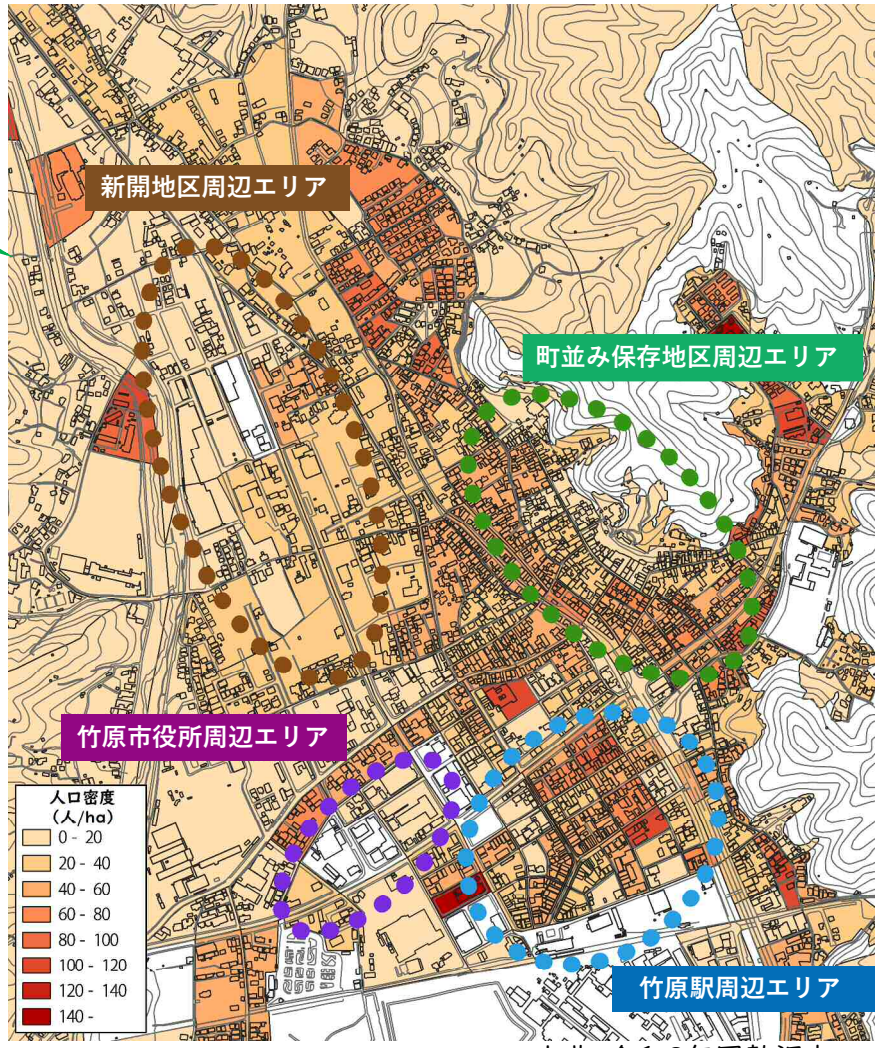
＜人口＞

本市の人口は、昭和55年をピークに減少し続けています。令和2年時点で23,993人ですが、30年後には13,400人とさらなる人口減少が見込まれています。

また、中心市街地地区では、竹原駅前周辺エリアや町並み保存地区周辺エリア及び北側に人口が集中しています。

竹原駅周辺エリアや町並み保存地区周辺エリアでは、概ね40人/ha以上の人口密度となっています。





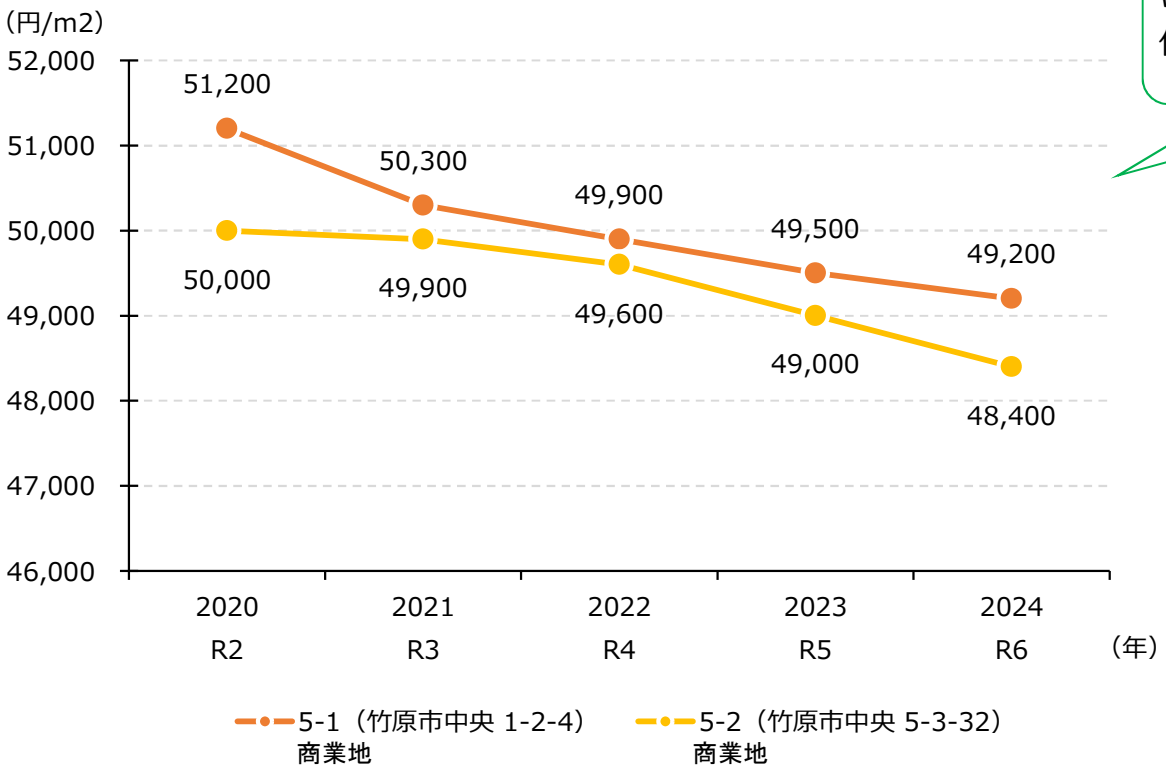
出典：令和2年国勢調査

2. 中心市街地地区のこれまでと潜在力

■統計で見る中心市街地地区

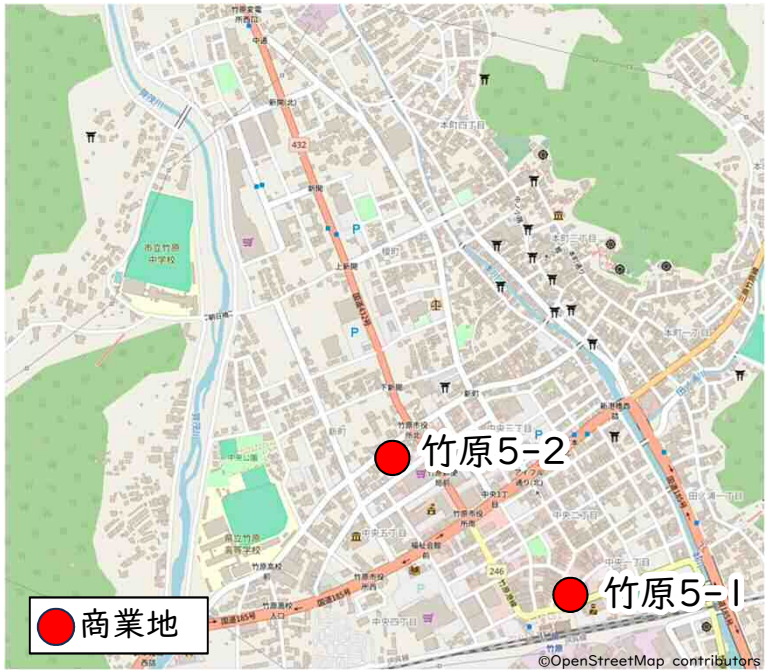
＜地価＞

中心市街地地区の地価は減少傾向となっており、中心市街地の活力の低下が懸念されます。



出典：国土交通省地価公示

中心市街地（商業地）の地価は約4%低下しています。

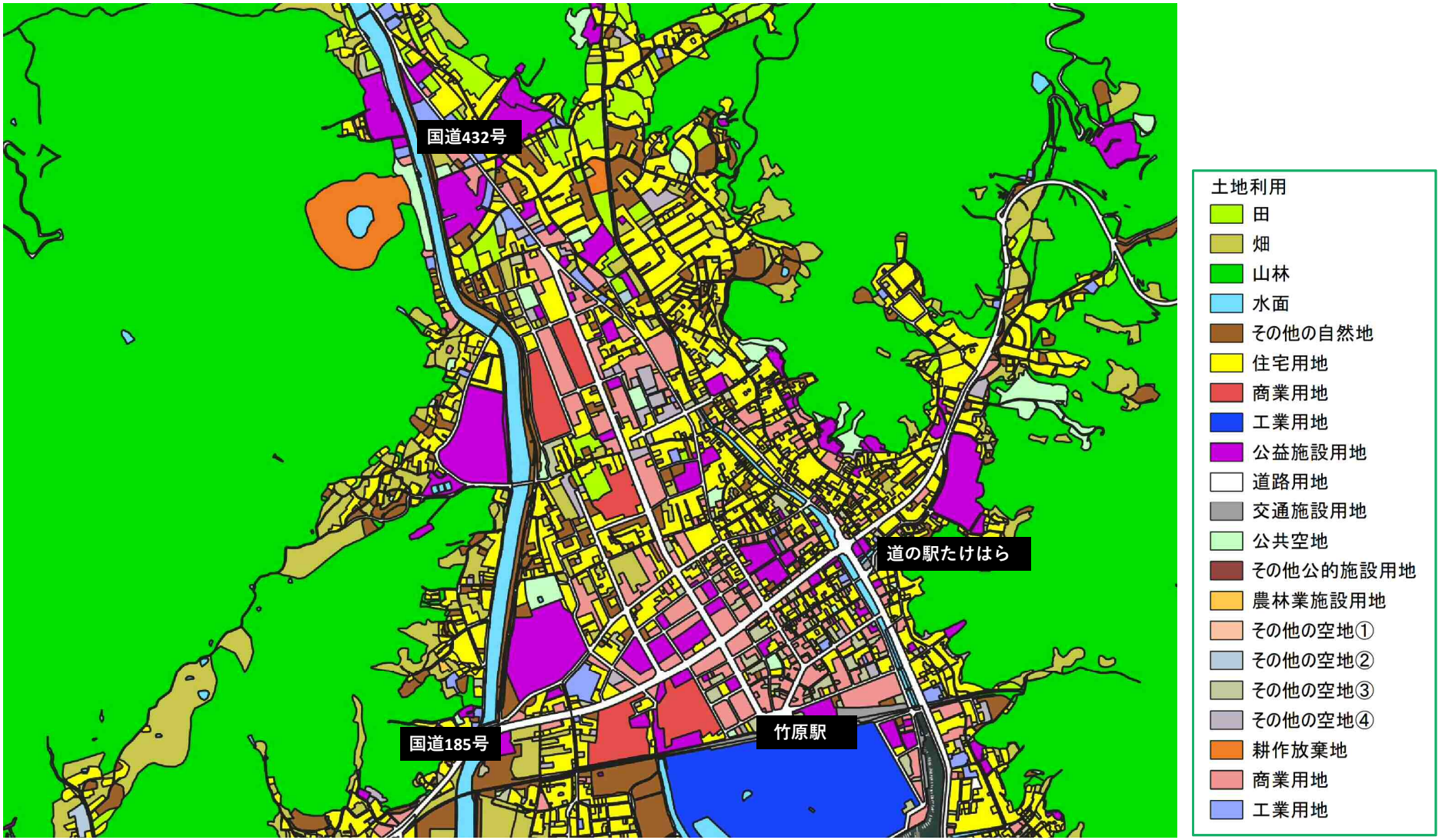


2. 中心市街地地区のこれまでと潜在力

■統計で見る中心市街地地区

＜土地利用＞

中心市街地地区は竹原駅前周辺エリアや国道432号沿道に商業施設が集積しています。また、町並み保存地区周辺エリアや沿道商業施設の背後地に住宅用地が集まっています。



出典：広島県都市計画基礎調査

2. 中心市街地地区のこれまでと潜在力

■統計で見る中心市街地地区

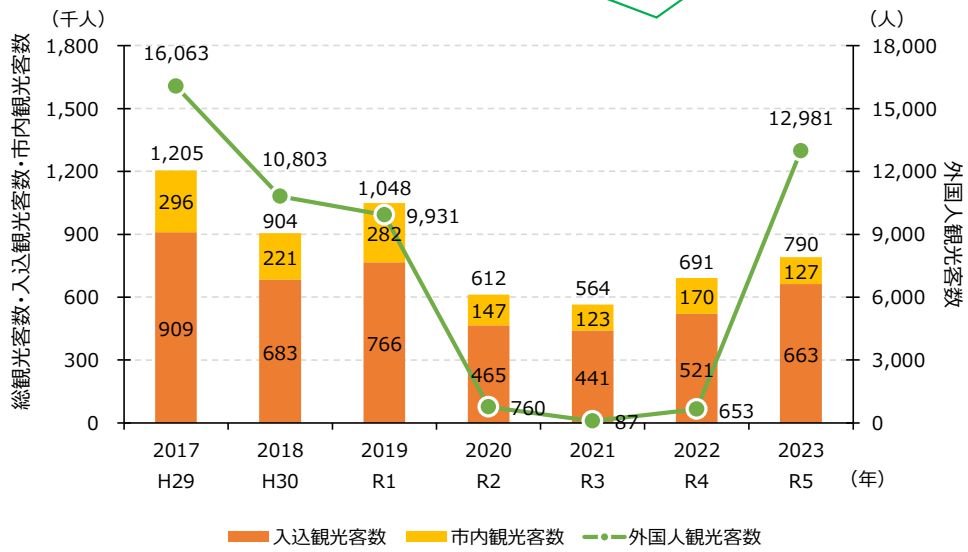
<観光客数>

本市の観光客数は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、令和2年に急減しましたが、令和5年には回復傾向となっています。特に外国人観光客数や入込観光客数は新型コロナウイルス感染症拡大以前の水準まで概ね回復しています。

<観光消費額>

一人当たりの観光消費額は、増加傾向が続いており、令和5年は4,000円/人を上回り、4,709円/人となっています。

観光客数は新型コロナウイルス感染症拡大以前の水準まで概ね回復しています。



出典：広島県観光動態調査

一人あたりの観光消費額は増加傾向が続いており、平成29年と比べ、1.9倍となっています。

出典：広島県観光動態調査

2. 中心市街地地区のこれまでと潜在力

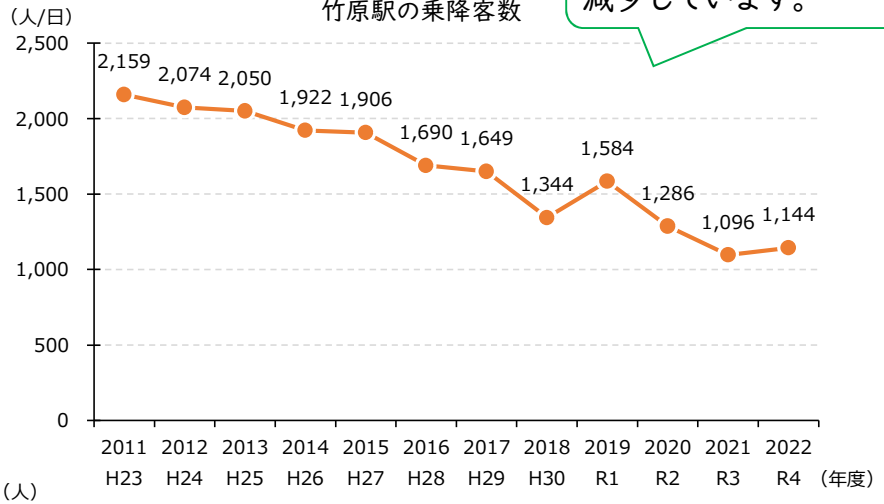
■統計で見る中心市街地地区

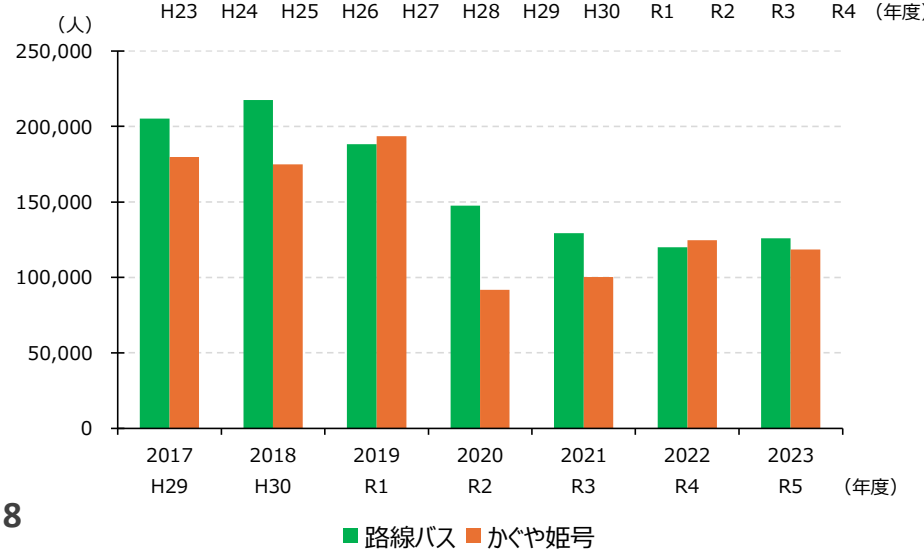
＜公共交通乗車人数＞

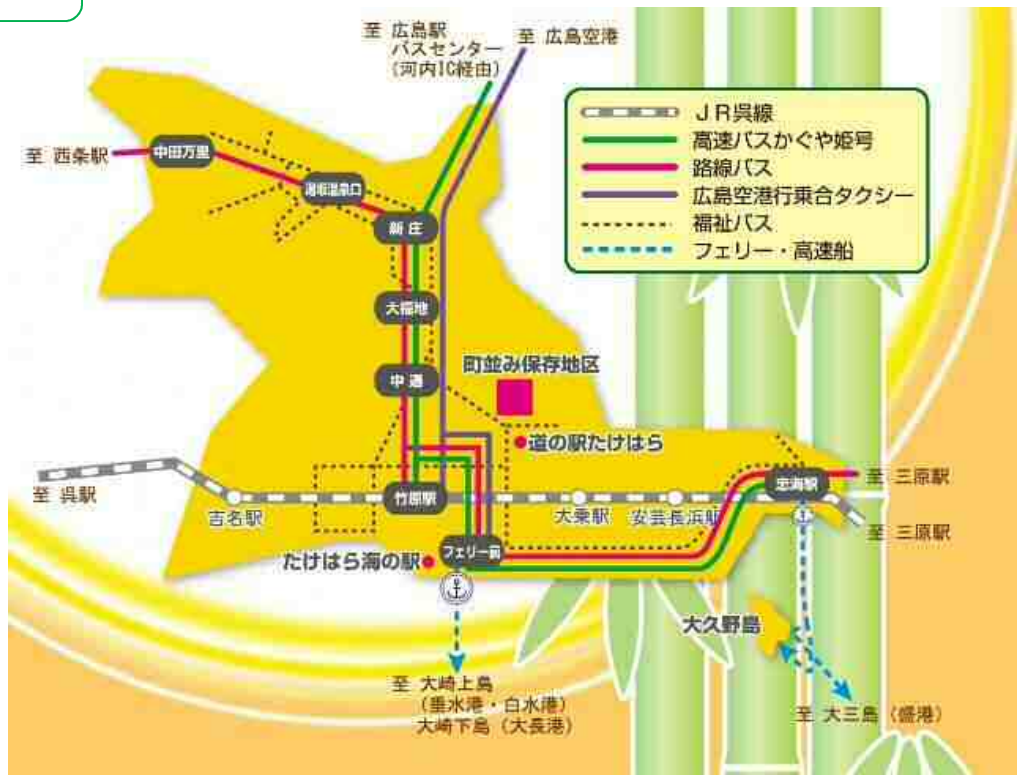
竹原駅の利用客は、減少傾向が続いており、令和4年度には1,144人/日となっています。

路線バスの利用客も、減少傾向にあります。かぐや姫号は令和2年に最も少なくなっており、以降増加傾向にあります。

鉄道・バスともに利用者数が減少しています。







竹原市公共交通の路線図

2. 中心市街地地区のこれまでと潜在力

■中心市街地地区での取組

公共施設の再編（市庁舎移転や子育て支援施設の集約化）

老朽化や耐震性、バリアフリー等に課題を抱えていた市庁舎の移転や、まちなかへの居住誘導を促進するため、新たなこども園を整備しました。

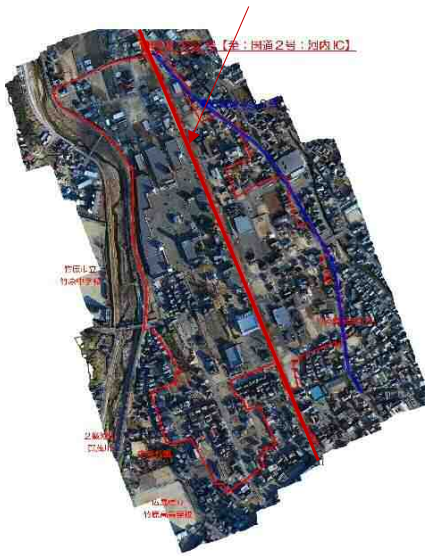
旧合同庁舎を活用した新市役所庁舎

子育て支援施設の集約化

新開地区土地区画整理事業

国道432号の拡幅工事に合わせ、都市基盤整備を行い、健全な市街地環境の形成と土地利用の増進を図ることを目的に、新開地区の土地区画整理事業を実施しています。

事業区域内への商業施設の出店



市街化の進む事業区域

町並み保存地区での取組

町並み保存地区には、江戸時代からの歴史的な建物が数多く残っていることなどから、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されるとともに、現在は、古民家をリノベーションして飲食店や宿泊施設、スタートアップ事業者の実証活動を行う拠点として、積極的に活用されています。

古民家を宿泊施設等へリノベーション

中心市街地地区の景観形成

本市では、竹原駅前周辺エリアや町並み保存地区周辺エリア、国道432号沿道等を重点的に景観形成に務めるエリアとして指定して、周辺地域と調和した良好な景観づくりに取り組んでいます。

町並み保存地区の景観

竹原駅前商店街の景観

2. 中心市街地地区のこれまでと潜在力

■中心市街地地区での取組

竹原駅前エリアでのウォーカブルなまちづくりの推進

竹原駅から町並み保存地区を結ぶ竹原駅前エリアでは、行政・地域・山口大学・企業と連携し、居心地が良く、歩きたくなる『ウォーカブルなまちづくり』を進めています。

社会実験の様子

空き店舗の活用

ストリートファニチャーの整備

一般社団法人「竹原観光まちづくり機構」の取組

令和4年に竹原市・竹原商工会議所・竹原市観光協会の3者が構成員となり、一般社団法人「竹原観光まちづくり機構」を設立しました。
観光（歓交）という交流・コミュニケーションを通じて来訪者と共に喜び合う地域づくりを目指して、様々な取組を実施しています。

コワーキングスペース
「SOLFIL（ソルフィル）」

地元高校生と観光まちづくりについて考える

出典：https://note.com/takeharadmo/

本川流域の防災対策

中心市街地において、平成30年、令和3年に度重なる浸水被害等が発生したことを踏まえ、令和4年7月に二級河川本川及び本川流域が特定都市河川に指定され、広島県と連携し、水害に強いまちづくりに取り組んでいます。

中心市街地の浸水状況

市民と連携したイベントの開催

町並み保存地区を中心に、歴史的建造物を竹灯りで幻想的にライトアップする『たけはら憧憬の路』や竹原の旧家に伝わるお雛さまを様々な施設へ展示する『たけはら町並み雛めぐり』等、市民と連携したイベントを開催し、多くの観光客が訪れています。

たけはら憧憬の路～町並み竹灯り～

たけはら町並み雛めぐり

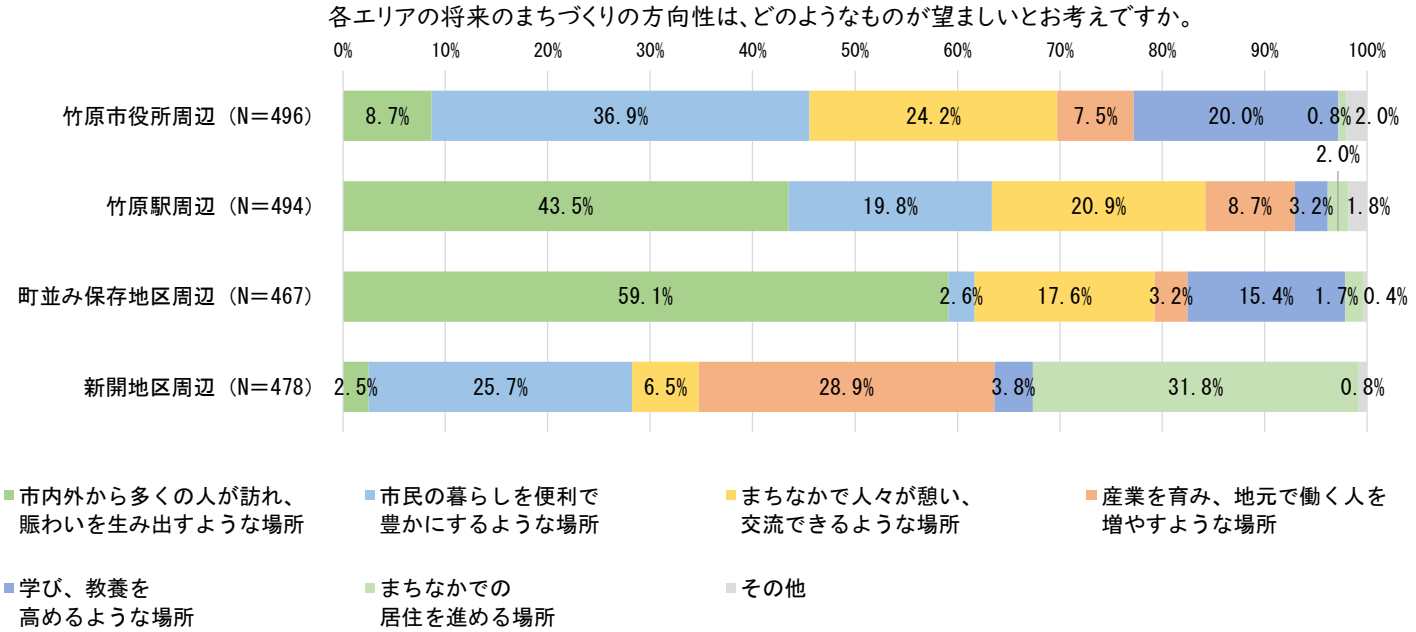
2. 中心市街地地区のこれまでと潜在力

■竹原に暮らす人の想い

＜市民アンケート調査＞

■概要
調査目的
中心市街地地区のまちづくりに関する住民の意向を把握するため実施
配布数/回収数
配布数：2,000部/回収数：740部（郵送：628部、WEB回収：112部）　【回収率37%】

- 竹原市役所周辺エリアのまちづくりの方向性として、「市民の暮らしを便利で豊かにする場所」「まちなかで人々が憩い、交流できるような場所」が望まれています。
- 竹原駅周辺エリアのまちづくりの方向性として、「市内外から多くの人が訪れ、賑わいを生み出すような場所」「まちなかで人々が憩い、交流できるような場所」が多く望まれています。
- 町並み保存地区周辺エリアのまちづくりの方向性として、「市内外から多くの人が訪れ、賑わいを生み出すような場所」が特に強く望まれており、次いで「まちなかで人々が憩い、交流できるような場所」となっています。
- 新開地区周辺エリアのまちづくりの方向性として、「まちなかでの居住を進める場所」「産業を育み、地元で働く人を増やすような場所」が多く望まれています。

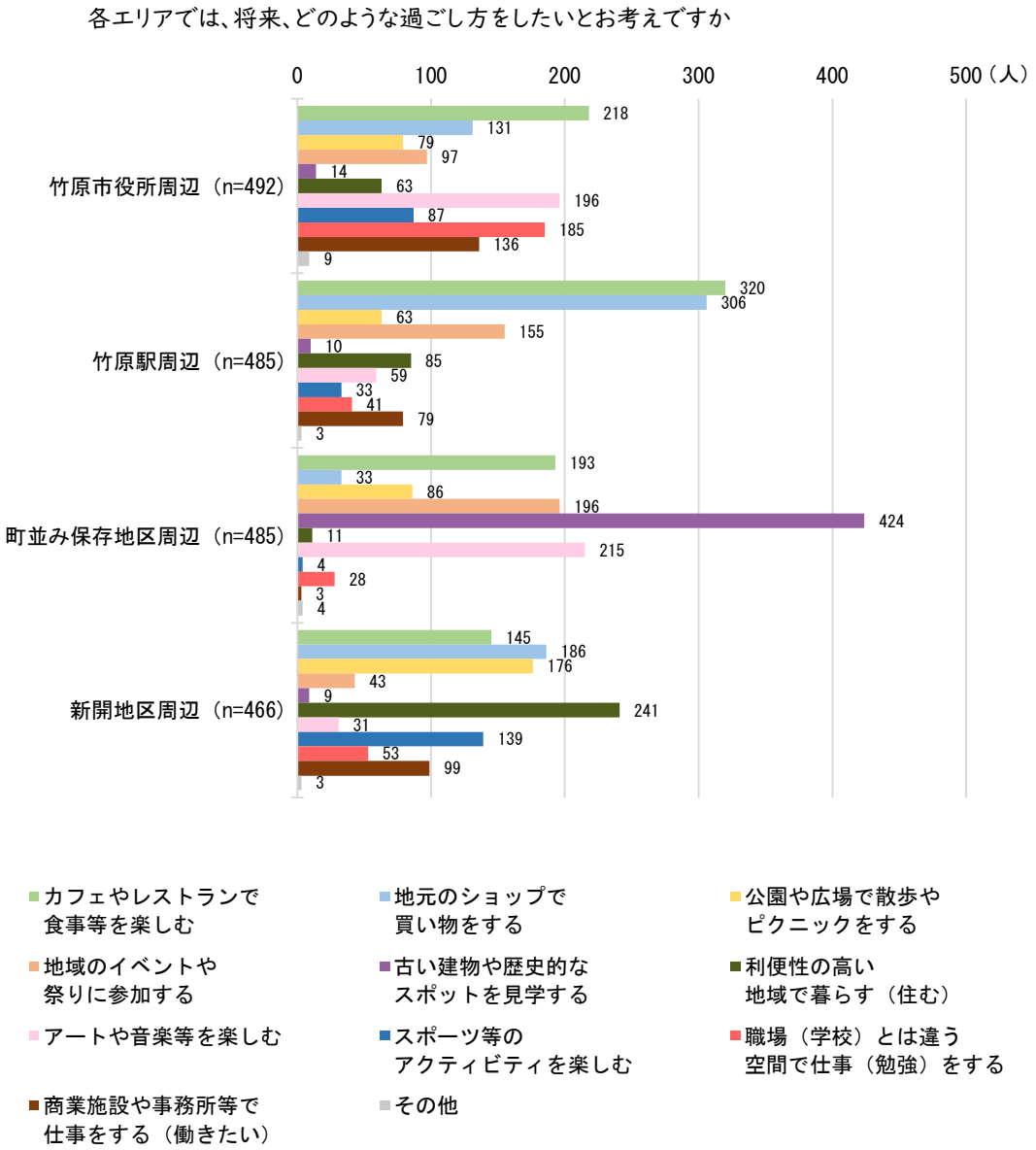


2. 中心市街地地区のこれまでと潜在力

■竹原に暮らす人の想い

＜市民アンケート調査＞

- 竹原市役所周辺エリアの将来の過ごし方として、「カフェやレストラン等で食事を楽しむ」「アートや音楽等を楽しむ」「職場等とは違う空間で仕事等をする」が多く望まれています。
- 竹原駅周辺エリアの将来の過ごし方として、「カフェやレストランで食事等を楽しむ」「地元のショップで買い物をする」が多く望まれています。
- 町並み保存地区周辺エリアの将来の過ごし方として、「古い建物や歴史的なスポットを見学する」が特に強く望まれており、次いで「アートや音楽等を楽しむ」となっています。
- 新開地区周辺エリアの将来の過ごし方として、「利便性の高い地域で暮らす（住む）」「地元のショップで買い物をする」「公園や広場で散歩やピクニックをする」が多く望まれています。



2. 中心市街地地区のこれまでと潜在力

■竹原に暮らす人の想い

<まちづくりワークショップ>

■竹原市役所周辺エリアのまちづくりのイメージ
こどもから高齢者まで誰でも気軽に交流できる憩いの空間。
図書館やフリースペース、飲食店等、生活の利便性を高める空間。
音楽・文化・スポーツ等を学び、体験できるオンリーワンの空間。
市民が日常的な健康増進に取り組む空間。
周辺との高低差を生かした、防災の拠点となる空間。

■竹原駅周辺エリアのまちづくりのイメージ
いつでも気軽に立ち寄ることができ、賑わい・交流の拠点となる空間。
ここにしかないお店やここでしかできないイベント等、唯一の体験ができる空間。
新たなチャレンジを実践できる店舗等により、地域の活力を育む空間。

■町並み保存地区周辺エリアのまちづくりのイメージ
年齢や地域を問わず、国内外から多くの人が訪れる観光の中心地。
来訪者に竹原での暮らしを体験しながら過ごしてもらう長期滞在型の交流空間。
楽しみながら竹原の芸術・文化を体験・学習できる空間。

■新開地区周辺エリアのまちづくりのイメージ
既存施設の充実により、日常生活に必要なものが何でも揃う場所。
まちなかでの居住の中心となる場所。
気軽にこどもが集い、学校とは別の居場所となる空間。
竹原の産業を育み、地元で働く人を増やすような場所。

将来のまちづくりの方向性-市民WSのとりまとめ-

	赤チーム	緑チーム	黄チーム	青チーム
竹原市役所周辺エリア	• 子供から高齢者まで誰でも交流できる空間 • 図書館×広場×飲食による他のまちにない空間	• 子供から高齢者が交流できる空間 • 音楽・文化・スポーツなど人が集まる空間 • 地域の防災の拠点となる施設づくり	• 家族で過ごせる空間 • 健康をテーマに楽しめる空間 • 竹原の歴史・文化を学べる空間	• いつでも誰とでも気軽に憩える空間 • 市民の活動を支える中心地
竹原駅周辺エリア	• ふらっと立ち寄って過ごせる空間 • 市街地を回遊する拠点となる空間	• ここでしかしていない唯一の体験ができる空間	• おしゃれな飲食店・雑貨店が集う賑わい空間	• 飲食が充実した空間 • 新たなチャレンジができる空間
町並み保存地区周辺エリア	• 市内外、外国からも多くの人が訪れる観光の中心地 • 竹原の芸術文化を体験・学習できる空間	• 気軽に移動でき、竹原の特産品が集まる空間 • 子供も楽しめる空間	• いつ行っても楽しむことが出来る空間 • 子供も楽しめる空間	• 体験+交流により市外からの来訪者が集まる場所 • 楽しみながら竹原の歴史を学べ体験できる空間
新開地区周辺エリア	• 日常生活に必要なものが何でも揃う場所 • 子供が気軽に遊べる空間	• 生活に密着した施設が充実する空間	• 既存施設がさらに充実する空間	• 気軽に近隣の子供が集い、居場所となる

3. 中心市街地の目指す姿

■まちづくりの体系

中心市街地の現況・市民意向

現況

人口
- 人口減少
- 少子高齢化の進展

土地利用
- 竹原駅周辺、国道432号沿道に商業施設が集積

観光
- 観光客は回復傾向、観光消費額は増加傾向

交通
- 市内外の移動は自家用車が中心

市民意向

竹原市役所周辺
- 様々な活動等を学び、体験できる空間
- 誰でも気軽に交流・憩える空間

竹原駅周辺
- 地域の活力を育む空間
- 唯一の体験ができる空間

町並み保存地区周辺
- 賑わいを生む観光の中心地
- 芸術・文化を体験・学習できる空間

新開地区周辺
- まちなか居住の中心となる場所
- 地元で働く人を増やす場所

中心市街地の取組

持続可能な都市経営
- まちなかへ居住や都市機能の誘導の推進

防災・減災
- 頻発・激甚化する自然災害の被害を抑えるため、本川流域の防災対策

魅力的な景観形成
- 地域資源を活かし、周辺と調和した景観の形成

歩きたくなるまちづくり
- 竹原駅周辺の公共空間や空き店舗・空き地等を活用したウォーカブルなまちづくりの推進

地域資源の活用
- 伝統的な古民家等を賑わい・スタートアップの拠点として活用
- 官民連携による観光まちづくり組織の設立

中心市街地での多様な活動や交流が始まり、人から人へ、過去から未来へ響き合うことで、新たな価値を生み出すまちを目指します。

中心市街地の目指す姿

Session city　竹原

～新しい活動が始まり、新しい価値を創造するまちへ～

『Session』とは、音楽などでよく用いられており、複数の演奏者等による即興の合奏のことです。ビジョンでは、まちなかでの人々の新しい活動が、偶然に混ざり合うことによって新たな交流や発見に出会い、新しい価値を生み出すことを目指す市民の合言葉として活用していきたいと考えています。

竹原市役所周辺エリア

将来のまちづくりの方向性
- 自分らしさを表現できる私の居場所

竹原駅周辺エリア

将来のまちづくりの方向性
- ヒト・バショ・ショクをつなぐまちなかチャレンジ

町並み保存地区周辺エリア

将来のまちづくりの方向性
- 歴史・文化を身近に感じる体験空間

新開地区周辺エリア

将来のまちづくりの方向性
- 暮らしやすさを高める居住コア

各エリアが相互に連携し、相乗効果を創り出すことで、新たな価値を創造

3. 中心市街地の目指す姿

■将来のまちづくりの方向性

中心市街地の目指す姿

Session city　竹原

～新しい活動が始まり、新しい価値を創造するまち～

竹原市役所周辺エリア

将来のまちづくりの方向性

- 自分らしさを表現できる私の居場所

竹原市役所周辺は行政サービスや市民活動の中心地となっています。これからも、誰もが気軽に交流・憩え、様々な活動を学び、体験できる空間となることが望まれています。そこで、市民が気軽に立ち寄り、自由に活動を楽しみながら自分らしさを表現できる、心地よくつながれる居場所をつくります。

竹原駅周辺エリア

将来のまちづくりの方向性

- ヒト・バショ・ショクをつなぐまちなかチャレンジ

竹原駅周辺は竹原の交通の要所であるとともに、あいふる商店街に多くの飲食店等が立地しています。一方、竹原駅のおもてなし機能の低下、駅前広場の安全性の課題、空き店舗等が点在していることを踏まえて、多くの人が集い新たな挑戦が生まれる空間となることが望まれています。そこで、新たなチャレンジや“食”で人やまちを盛り上げ、まち全体に回遊を生むエリアを目指します。

町並み保存地区周辺エリア

将来のまちづくりの方向性

- 歴史・文化を身近に感じる体験空間

町並み保存地区周辺は竹原の主要な観光地であるとともに居住エリアとなっています。竹原の歴史・伝統を身近に感じるだけでなく、来訪者と居住者が交流する等、新たな活動を創出することが望まれています。そこで、市民も来訪者も竹原の歴史や文化を感じ、暮らしを体験できるエリアを目指します。

新開地区周辺エリア

将来のまちづくりの方向性

- 暮らしやすさを高める居住コア

新開地区周辺は住宅や商業施設が集積する市民の生活の中心地であるとともに、中心市街地に自動車で来訪する際の玄関口となっています。今後も居住の中心地として暮らしやすさを高めることが望まれています。そこで、市民の暮らしの中心として住みやすさNo.1を目指し、中心市街地の玄関口としてまちの「顔」となるエリアを目指します。

3. 中心市街地の目指す姿

■将来のまちづくりの方向性

竹原市役所周辺エリア

将来のまちづくりの方向性

自分らしさを表現できる私の居場所

まちづくりの方向性に込める想い

♪市民が気軽に立ち寄ることができて、好きな活動を自由に楽しむことで、自分らしさを表現できるエリアづくりを進めます。
♪いつも誰かがいて、自然な距離感でつながっている市民一人一人にとって心地よい居場所となるエリアづくりを進めます。

エリアの特徴

業務・ビジネス
♪公共施設が集積しており、行政サービスの中心地となっています。
商業・サービス
♪大型商業施設が近年閉店し、地域活力の低下が懸念されています。
交通
♪国道185号、国道432号が交差しており、非常にアクセス性が高くなっています。
♪高速バス「かぐや姫」等の停留所もあり、市外からもアクセスしやすくなっています。

＼＼ 市民の考えるエリアの将来イメージ ／／

こども：おじいちゃんやおばあちゃんに料理を教えてもらったり、本を読んでもらいたいな。

若い人：カフェでコーヒーを飲みながら、図書館の本を読んだり、友達とお喋りしたいな。近くのショッピングセンターで買い物して帰ろう!

高齢者：市民ホールでの演奏会に向けて、音楽室や広場で練習したいな。

まちづくりの基本方針1

こどもから高齢者までの居場所となる空間をつくります

竹原に住む人・働く人・来訪者、こども・大人等、このエリアに訪れたすべての人が同じ空間・時間を共有できる居場所となる空間をつくります。

エリアを盛り上げる主な取組イメージ
・図書館や子育て、音楽等が融合し、新たなセッションを生む複合施設の整備
・民間機能と連携した一体的な空間づくり
・複合施設や広場の活用とパブリックなマインドを有した人材の育成

まちづくりの基本方針2

市民にとってウェルネスな空間をつくります

こどもから高齢者までの市民が、気軽に楽しく健康増進に取り組みながら、多世代で交流ができる空間をつくります。

エリアを盛り上げる主な取組イメージ
・市民の健康増進に向けた取り組み

まちづくりの基本方針3

災害に強い安心空間をつくります

竹原の中心として、災害時も市民が安心して暮らすことができるように、防災の拠点となる空間をつくります。

エリアを盛り上げる主な取組イメージ
・避難所機能強化と市民防災力の向上

エリアの将来イメージ

竹原市役所周辺エリア

将来のまちづくりの方向性 **自分らしさを表現できる私の居場所**

まちづくりの基本方針1

こどもから高齢者までの居場所となる空間をつくります

図書館や子育て、音楽等が融合し、新たなセッションを生む複合施設の整備

公有地を有効活用し、図書館や市民ホール、子育て機能、健康づくり等が融合し、市民活動を支えるとともに、新たな価値を創造する“セッションを生む”複合施設を整備します。

民間機能と連携した一体的な空間づくり

エリア内の低未利用地を有効活用し、複合施設と相乗効果を発揮し、まち全体の利便性を高める施設の誘導を行います。誘導にあたっては、民間事業者へのサウンディング調査等を行い、自由な発想に基づくアイデアや事業条件についての意向等を把握します。

複合施設や広場の活用とパブリックなマインドを有した人材の育成

市民が中心となった複合施設を積極的に活用した様々な企画を通じて、だれでも気軽に自分を表現することができる空間とするとともに、パブリックなマインドを有した人材を育てます。

まちづくりの基本方針2

市民にとってウェルネスな空間をつくります

市民の健康増進に向けた取り組み

市民の外出機会の創出や音楽を活用したフレイル対策、食を通じた健康増進等、市民の健康寿命を延ばすためのソフト的な施策を積極的に展開します。

乳幼児から高齢者までの健診機能等の充実を図り、市民の日常生活が豊かになり、生き生きと活躍できる空間をつくります。

出典：広島県

まちづくりの基本方針3

災害に強い安心空間をつくります

避難所機能強化と市民防災力の向上

公共施設の再編にあわせて、避難所機能を確保するとともに、日頃からの防災訓練の実施や防災イベントによる市民一人一人の防災意識の醸成等、防災・減災対策を進めます。

出典：大井地域交流センターだより

竹原市役所周辺エリア

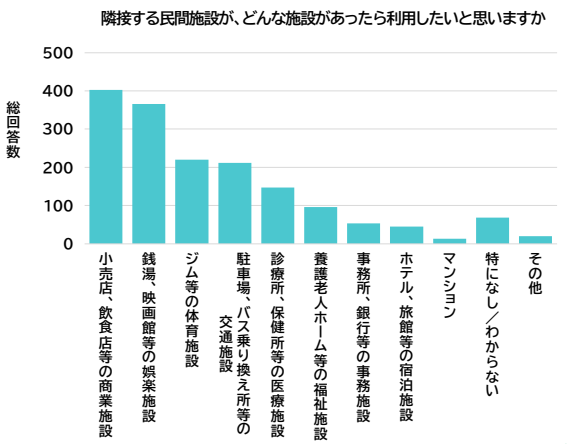
竹原市複合施設と民間機能の連携に関する基本的考え方

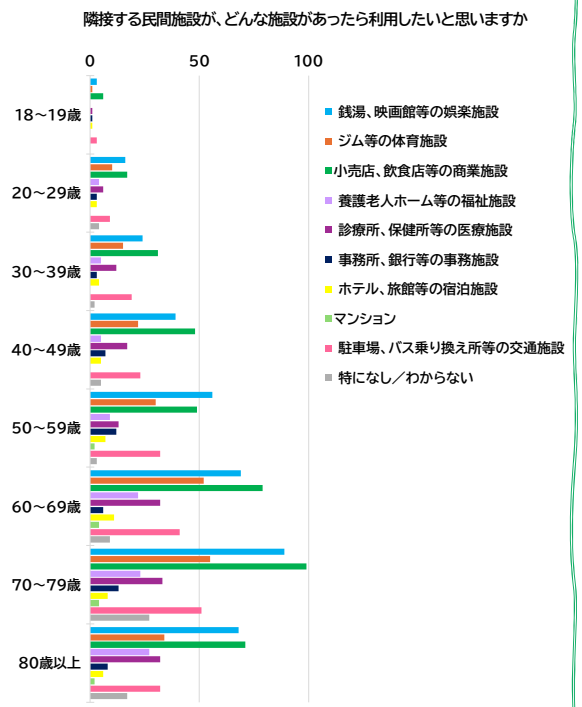
竹原市役所周辺エリアの将来のまちづくりの方向性や基本方針を実現するためには、日常的に多世代が滞在・交流できる空間づくりが重要であると考え、こうした空間づくりにあたっては、行政と民間事業者等が連携して取り組むことが重要です。本エリアには、市民活動の中心となる複合施設の整備を予定しています。一方でエリア内に位置していた大型商業施設が撤退しており、その跡地の有効活用が求められています。

市民アンケートや中高生アンケートでは、新たに整備する複合施設と隣接して、“小売店、飲食店等の商業施設”や“銭湯、映画館等の娯楽施設”等の地域に賑わいを創出する施設の誘導が求められています。

上記を踏まえ、複合施設の整備とあわせ整備される民間施設は、**双方の利用者の人々の往来を生み出し、賑わいの創出や居心地の良い空間の形成に相乗効果を生む民間機能の誘導**を行います。
（なお、新たに整備される民間施設は、本市の人口規模等を踏まえて、従前の大型商業施設の規模から一定程度縮小すること。）

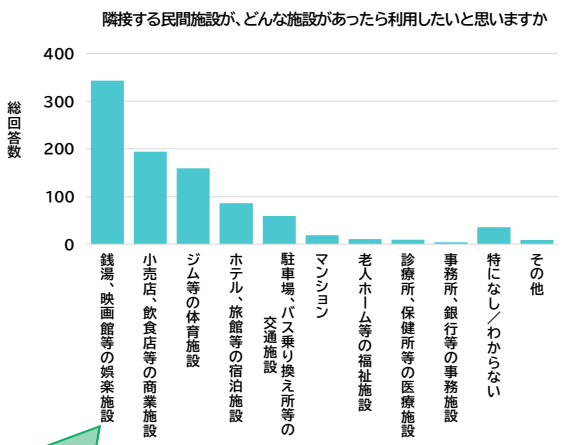
令和6年度　市民アンケート結果





娯楽施設や商業施設は年代によらず多世代が利用したいと考えている！

令和6年度　中高生アンケート結果



学生は特に娯楽施設を利用したいと考えている人が多い！

竹原駅周辺エリア

将来のまちづくりの方向性

ヒト・バショ・ショクをつなぐまちなかチャレンジ

まちづくりの方向性に込める想い

♪竹原の陸の玄関口として、人が集まり、まちなかの様々な場所へ送り出す回遊の中心、さらに竹原の食の中心を目指します。
♪ここに集まった人と、これから新たなチャレンジをする人をつなぎ、まちを大きく盛り上げるエリアづくりを進めます。

エリアの特徴

居住
♪多くの住宅が立地しており、人口密度が高くなっています。
商業・サービス
♪あいふる商店街に、多くの飲食店が立地しています。
♪空き店舗や空地等が点在しています。
交通
♪竹原駅があり、鉄道・バス・タクシー等、竹原の交通の拠点となっています。
♪竹原駅と町並み保存地区をつなぐ役割を担っています。

＼＼ 市民の考えるエリアの将来イメージ ／／

高校生：放課後や休みの日に友達とカフェでおしゃべりしてゆっくり過ごしたいな。

観光客：電車で竹原駅まで行って、あいふる商店街のごはん屋さんでお昼ご飯を食べたい。町並み保存地区まで少し遠いので、簡単に移動できたらいいな。

高齢者：駅前やあいふる商店街で開催しているイベントに参加したい。いつも新しいお店が出てるので飽きない。

まちづくりの基本方針1

新たなチャレンジを生み出す空間をつくります

あいふる商店街や本川通りに数多くある空き店舗を活用し、多様な事業者や人材が、積極的にチャレンジして未来の竹原を創造する空間をつくります。

エリアを盛り上げる主な取組イメージ
・空き店舗、低未利用地の活用とスタートアップ事業者をはじめとする創業者の支援
・市民や学生、事業者がチャレンジできる環境の検討

まちづくりの基本方針2

ここにしかないウォーカブルストリートをつくります

竹原駅と町並み保存地区をつなぐエリアとして、竹原駅前ウォーカブルビジョンと連携して誰もが歩いて楽しい、歩きたくなる通りをつくります。

エリアを盛り上げる主な取組イメージ
・ウォーカブル推進協議会の主体的な活動と発展
・歩行者が歩きながら楽しめる歩行空間の演出
・居心地が良く滞在できる空間の演出

まちづくりの基本方針3

地域をつなぐ回遊空間をつくります

竹原駅を交通の中心として、各エリアへのアクセス性の向上と、来訪者のおもてなし機能を強化し、地域をより身近に感じられる空間をつくります。

エリアを盛り上げる主な取組イメージ
・エリア全体でのおもてなし機能の強化
・新たなモビリティ等による交通環境の整備

エリアの将来イメージ

竹原駅周辺エリア

将来のまちづくりの方向性 **ヒト・バショ・ショクをつなぐまちなかチャレンジ**

まちづくりの基本方針1

新たなチャレンジを生み出す空間をつくります

空き店舗、低未利用地の活用とスタートアップをはじめとする創業者の支援

市内外を問わず、新たな起業等チャレンジする事業者について、地域住民や沿道店舗、行政等が連携しながら積極的に支援することによって、空き店舗や空き地等の低未利用に取り組みます。

市民や学生等がチャレンジできる環境の創出

本市と関係のある大学や市内学生とパブリックなマインドを有した市民等が、地域の課題解決、積極的な市民活動の推進等、連携した取り組みを推進する拠点の確保について検討します。

まちづくりの基本方針2

ここにしかないウォーカブルストリートをつくります

ウォーカブル推進協議会の主体的な活動

商店街や地域住民、関係事業者、大学、中学・高校、行政等が連携した継続的なまちづくり活動と都市再生推進法人への発展を目指します。

歩行者が歩きながら楽しめる歩行空間の演出

ウォーカブルなまちづくりを実現するため、来訪者にとって魅力ある景観形成、適切な維持管理、回遊するためのきっかけづくりに取り組みます。

居心地が良く滞在できる空間の演出

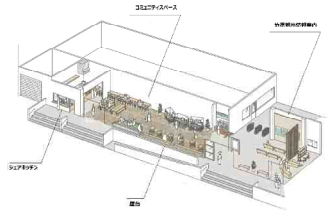
ウォーカブルなまちづくりを実現するため、来訪者にとって居心地が良く滞在できる場所について、民間事業者や行政及び大学等と連携して検討します。

まちづくりの基本方針3

地域をつなぐ回遊空間をつくります

エリア全体でのおもてなし機能の強化

利便性の低下している竹原駅や安全性に課題のある駅前広場、空き店舗等を活用して、来訪者のおもてなし機能の強化について検討します。



新たなモビリティ等による交通環境の整備

鉄道やバス等で竹原に訪れた人が快適に移動できるよう、新たなモビリティ等を活用し、快適な交通環境を検討します。

町並み保存地区周辺エリア

将来のまちづくりの方向性

歴史・文化を身近に感じる　体験空間

まちづくりの方向性に込める想い

♪観光客だけでなく、市民や働きに来ている人、誰でも竹原の歴史や文化を感じられるエリアづくりを進めます。
♪これから竹原に住もうかと思っている人が竹原を感じながら、暮らしを体験できるエリアづくりを進めます。

エリアの特徴

観光
♪重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、伝統的な建造物等が歴史的なまちなみを形成しています。
♪伝統的な建造物を改修した宿泊施設があります。

商業・サービス
♪エリア内に飲食店や酒造等が立地しており、地区内外から人が訪れています。

居住
♪竹原市を代表する観光スポットである一方、エリア内には多くの人が居住しており、人口密度が高くなっています。

＼＼ 市民の考えるエリアの将来イメージ ／／

観光客：歴史的なまちなみを散歩して、お腹が空いたらエリア内のお店でご飯を食べたいな。

観光客：竹原ならではのイベントに参加してみたいな。しっかりPRしてくれていたら市外からでもいってみようって思うかもね。

高齢者：朝、落ち着いた雰囲気の中でモーニングを楽しんでから、仕事に行きたいな。

まちづくりの基本方針1

国内外から多くの人が訪れる美観空間をつくります

江戸時代から続く伝統的な町並みを活かし、魅力を高めることで、国内だけでなく海外からも多くの人が訪れる空間をつくります。

エリアを盛り上げる主な取組イメージ
・伝統的な建造物の修理・修景
・まちの入口としてエリアの顔の整備
・国内外への観光プロモーション
・コンシェルジュの育成

まちづくりの基本方針2

竹原の暮らしを体験できる交流空間をつくります

歴史的建造物を活用しながら市民と来訪者が交流し、新しい賑わいを感じられるエリアづくりを進めます。

エリアを盛り上げる主な取組イメージ
・地域と来訪者の交流スペースの整備
・民間事業者による新たな賑わい施設の整備

まちづくりの基本方針3

歴史・芸術・文化を体感できる空間をつくります

エリア全体で竹原の歴史や文化、芸術を体感でき、市民や来訪者が竹原に愛着をもてる空間をつくります。

エリアを盛り上げる主な取組イメージ
・まちなみまるごと博物館
・歴史・文化等の体験活動

エリアの将来イメージ

町並み保存地区周辺エリア

将来のまちづくりの方向性 **歴史・文化を身近に感じる　体験空間**

まちづくりの基本方針1

国内外から多くの人が訪れる美観空間をつくります

伝統的な建造物の修理・修景

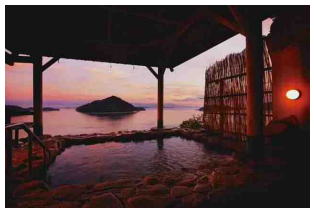
歴史的なまちなみを形成している伝統的な建造物の修理・修景の支援等により、歴史的な景観を保全します。

まちの入口としてエリアの顔の整備

魅力的な宿泊施設やレストラン・カフェ等、エリアの顔となる施設を充実し、おもてなし機能を強化します。

国内外への観光プロモーション

国内・海外に向けて、近接する他の観光資源と連携した効果的な観光プロモーションを発信することで、竹原の魅力を多くの人に感じてもらい、誘客につなげます。



コンシェルジュの育成

歴史や文化に触れるまち歩きや魅力ある旅行商品や地域資源を最大限に生かしたアクティビティの開発等、竹原の魅力を高めるためにコンシェルジュの育成に取り組みます。

まちづくりの基本方針2

竹原の暮らしを体験できる交流空間をつくります

地域と来訪者の交流スペースの整備

来訪者が竹原の居住者と気軽に交流することが出来る場所の整備を目指します。

民間事業者活力を活用した新たな賑わい施設

市の所有している歴史的建造物や空き家等を、民間の優れたノウハウを活用し、整備を検討します。

まちづくりの基本方針3

歴史・芸術・文化を体感できる空間をつくります

まちなみまるごと博物館

伝統的な建造物や歴史的なまちなみを活用して、竹原の歴史や文化を展示・体感できる、まるごと博物館の取組を検討します。

芸術・文化等の体験活動

塩造りや酒造りで栄えた文教のまち、竹原ならではの芸術・文化を体験できる取組を進めるとともに、竹原で新たな芸術を創造する場所の整備を検討します。

新開地区周辺エリア

将来のまちづくりの方向性

暮らしやすさを高める　居住コア

まちづくりの方向性に込める想い

♪住宅や商業施設が集積するエリアとして、市民の“暮らし”の中心として住みやすさNo.1のエリアを目指します。
♪中心市街地の玄関口として竹原の“カオ”となる空間を目指します。

エリアの特徴

居住
♪土地区画整理事業に伴い、多くの住宅が新築されており、今後も同様の傾向が続くと見込まれます。

商業・サービス
♪国道432号沿道に飲食店や小売店等、多くの商業施設が立地しており、利便性が高くなっています。

交通
♪広島空港や山陽自動車道、国道2号等へのアクセス性が高く、自動車での移動が中心となっています。

＼＼ 市民の考えるエリアの将来イメージ ／／

こども：学校終わりや休みの日に公園に行くと、いつでも友達がいて遊びたいな。

若い人：新開地区は商業施設も多く、道路も広いのでここに引っ越して暮らしたいな。

高齢者：買物で便利だけど、もっといろいろなお店があれば、より住みやすくなるな。

まちづくりの基本方針1

日常生活を支える空間をつくります

国道432号沿道に都市機能のさらなる集積を図るとともに、住民同士の交流や憩いの場を充実することで生活を支える空間をつくります。

エリアを盛り上げる主な取組イメージ
・都市機能（商業施設・医療福祉施設等）の集積
・魅力ある公園整備

まちづくりの基本方針2

まちなかでの居住の中心となる空間をつくります

これから竹原に住みたいと思っている人に選ばれ、すでに住んでいる人に住み続けたいと思ってもらえる、居住の中心となる空間をつくります。

エリアを盛り上げる主な取組イメージ
・良好な居住環境の創出
・子育て世帯のニーズに応じたインフラ整備
・魅力ある公園整備【再掲】

まちづくりの基本方針3

まちの玄関口としてシンボリックな空間をつくります

来訪者が広島空港や山陽自動車等から中心市街地に訪れる際の玄関口としての、シンボリックな空間をつくります。

エリアを盛り上げる主な取組イメージ
・シンボルロードの修景・緑化
・歩きながら楽しめる歩行者空間の整備

エリアの将来イメージ

新開地区周辺エリア

将来のまちづくりの方向性 **暮らしやすさを高める　居住コア**

まちづくりの基本方針1

日常生活を支える空間をつくります

都市機能（商業施設・医療福祉施設等）の及び居住機能集積

国道432号沿道を中心に立地している商業施設や医療・福祉施設等の都市機能のさらなる集積を目指します。

魅力ある公園整備

周辺住民や利用者のニーズを把握し、魅力ある公園を整備します。

まちづくりの基本方針2

まちなかでの居住の中心となる空間をつくります

良好な居住環境の創出

新開土地区画整理事業や公共下水道事業等を推進し、快適で暮らしやすい良好な居住環境を創出します。

子育て世帯のニーズに応じたインフラ施設の整備

広い区画内道路や安心してこどもが遊ぶことができる公園等、子育て世帯のニーズに応じたインフラ施設を整備します。

魅力ある公園整備【再掲】

まちづくりの基本方針3

まちの玄関口としてシンボリックな空間をつくります

シンボルロードの修景・緑化

シンボルロードとなっている国道432号の修景・緑化により、玄関口としての顔をつくります。

歩きながら楽しめる歩行者空間の整備

現在、街路樹として竹を利用していますが、シンボリックな空間を形成するため街路樹計画の見直しを行います。また、歩行者が歩きたくなるシンボルロードとして、安全な歩行空間を確保します。

中心市街地地区の回遊性向上に向けた取組事例

中心市街地地区の4つエリアで実施する取組の効果を最大限発揮するため、以下の回遊性向上に向けた取組により中心市街地地区の連携を強化します。
4つのエリアを徒歩や自転車、新たなモビリティでつなぐことにより、まちの賑わいを見える化するだけでなく、車で通過するだけでは気づかなかった新たな発見や偶然の出会いがいくつも生まれ、まち全体を『居心地が良く、楽しむステージ』として創出します。

回遊性を高める取組1

回遊性を高める新たなモビリティの導入

シェアサイクルや電動キックボート等、将来の新たなモビリティの導入を見据え、安全で快適にまちなかを回遊できる環境を検討します。

▲好きな場所で自転車を借りて、また別の場所で返せるシェアサイクル

▼ちょっとした移動に使える電動のキックボード。歩くより楽ちんで早く移動できる

▲電動でゆっくり走るグリーンスローモビリティ。まちなかでの移動にピッタリ

回遊性を高める取組2

市民も来訪者も楽しめるまち歩き★健康の回廊づくり

中心市街地地区の魅力ある資源をつなぐまちなか回遊軸を“回廊”にみたて、市民や来訪者が楽しみながらまちなかを歩くことができる空間づくりを検討します。この回廊をウォーキングコースへ設定したり、回廊沿いでイベントを実施することで、歩くことが身近になり、市民の健康づくりを支えます。

▼居住者も来訪者も同じ空間を一緒に歩いている

▲ウォーキングコースがあるから、ちょっと歩いてみよう

▼健康づくりに向けた仕掛け

回遊性を高める取組3

歩いて・とまって楽しい空間づくり

歩行者の回遊性を高める仕掛けとして、わかりやすい案内サイン、回遊時に休憩するベンチや回遊の楽しさに繋がるストリートファニチャー等の配置、滞留空間のデザインや演出を検討します。

▲歩きたくなる道をつくったり、ちょっと座ってのんびりできるスペースをつくったりして、ちょっと足を伸ばしてみようって思える仕掛けづくり

▸まちなみの雰囲気と調和し、見て心地良い案内看板

回遊性を高める取組4

歩く人に優しい道路空間の整備

道路のバリアフリー・ユニバーサルデザイン化により、だれもが障害なく移動できる環境づくりを進めます。

▲段差がないのでとても歩きやすい

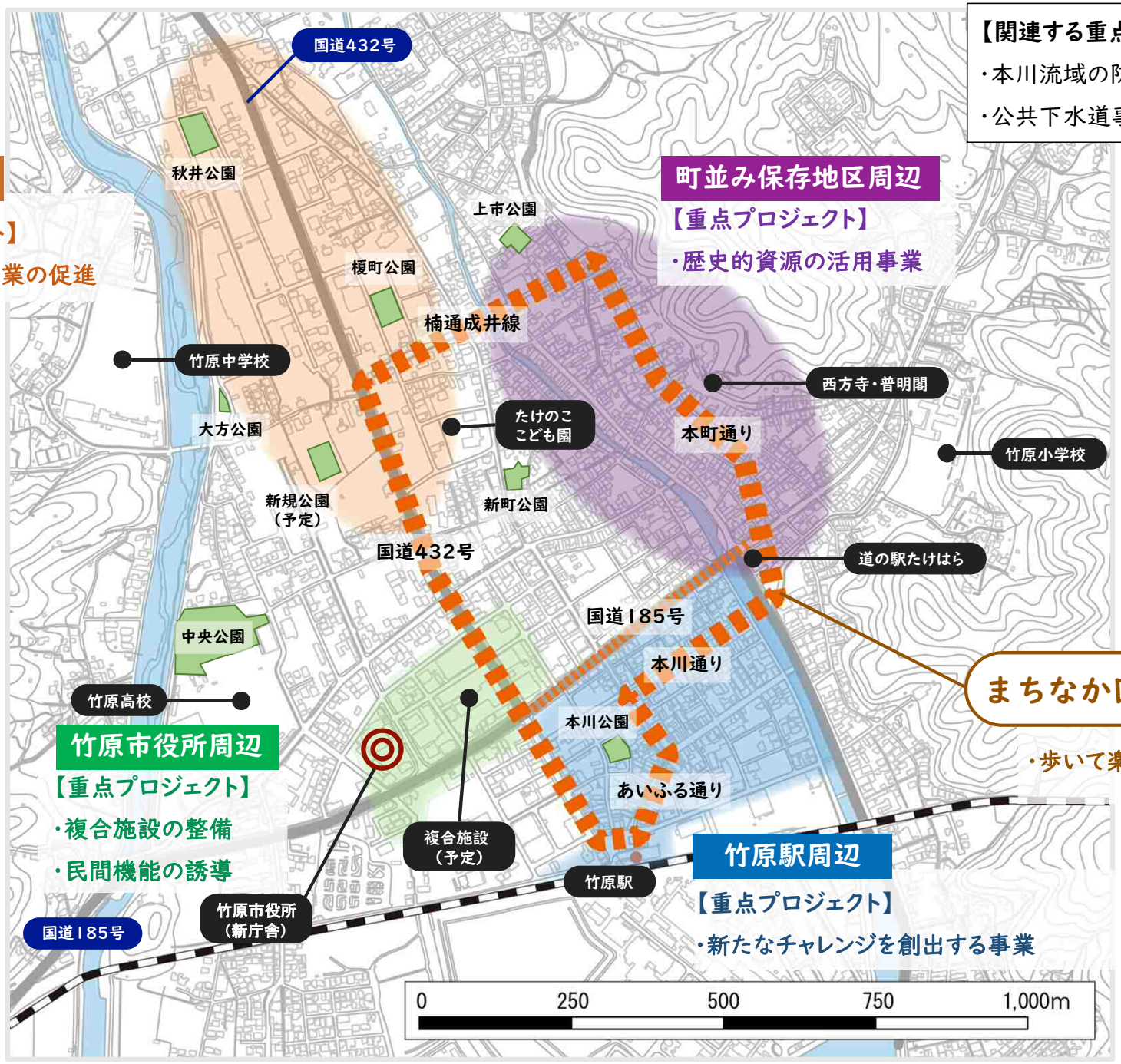
▼ピクトグラムだから、どっちに行ったらいいか分かりやすい

▲英語でも書いてあるから誰でも目的地まで簡単に行けるね

中心市街地地区重点プロジェクトマップ

本ビジョン及び各エリアの将来像を実現するために、特に、高い事業効果が期待される取組や防災に係る取組を『重点プロジェクト』として位置づけ、優先的に取り組みます。

【関連する重点プロジェクト】
- 本川流域の防災対策
- 公共下水道事業



新開地区周辺

【重点プロジェクト】
- 土地区画整理事業の促進

町並み保存地区周辺

【重点プロジェクト】
- 歴史的資源の活用事業

まちなか回遊軸

- 歩いて楽しい回遊軸の構築

竹原市役所周辺

【重点プロジェクト】
- 複合施設の整備
- 民間機能の誘導

竹原駅周辺

【重点プロジェクト】
- 新たなチャレンジを創出する事業

周辺地域との連携

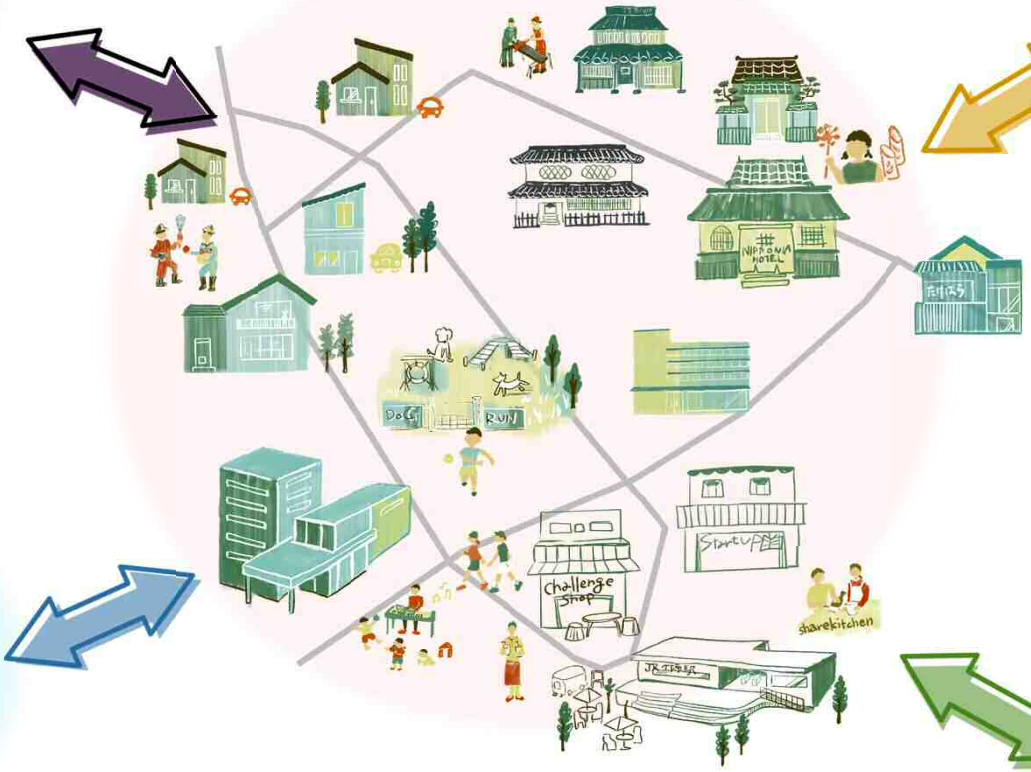
中心市街地地区は本市の中心拠点であるとともに、道路ネットワークや鉄道、フェリー等の交通利便性を生かし、大崎上島町や東広島市の安芸津エリア、広島大学等の周辺地域との連携を強め、地域全体のつながりと交流を生み出す拠点を目指します。

東広島との連携

まちづくりを実践的な学びの場に！

建築・経済・情報・教育等、大学の「知」とまちづくりの「課題」をつなぎ、若い世代と一緒にまちづくりを行います。交流促進のため、学生のシェアハウス、来訪客が中長期滞在できるゲストハウスの整備が求められています。

中心市街地地区



大久野島との連携

自然や歴史と深くつながる、上質なツーリズム環境の整備

1934年に制定された瀬戸内海国立公園は2034年で100周年を迎えます。また、戦争遺構である大久野島は近年「ラビットアイランド」として海外観光客を中心に人気があり、その集客力に対して周辺施設の整備や、自然や平和を題材にした高品質なツーリズムの組成が求められています。

安芸津との連携

瀬戸内の幸を世界に届ける！

呉線でのつながりを活かし、瀬戸内の魅力を共に伝える同士として、高め合う存在になることが求められています。

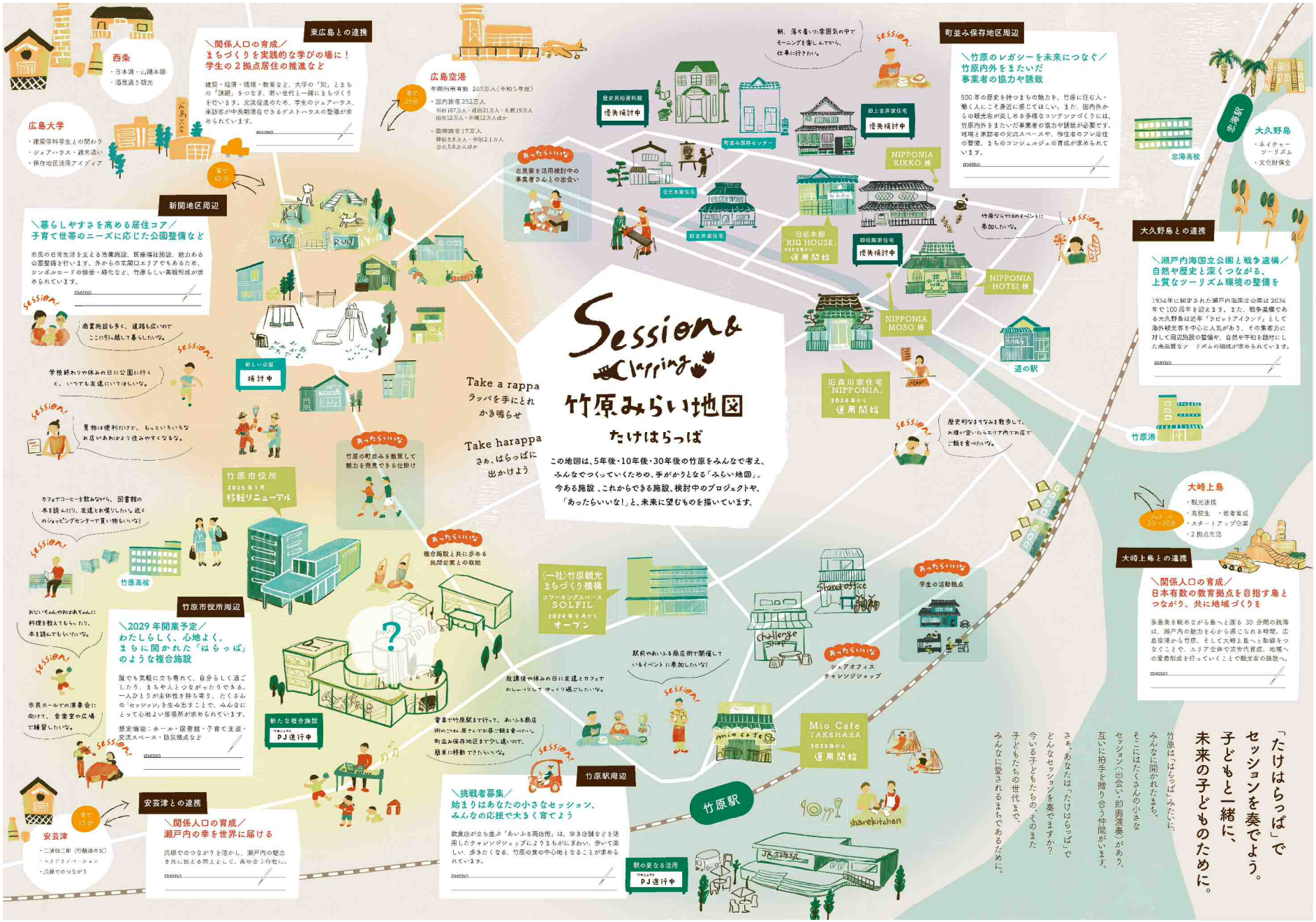
大崎上島との連携

日本有数の教育拠点を目指す島とつながり、ともに地域づくり

多島美を眺めながら島へと渡る30分間の航海は、瀬戸内の魅力を心から感じられる時間。広島空港から竹原、そして大崎上島へと動線をつなぐことで、エリア全体で次世代の人材育成、地域への愛着形成が求められています。

たけはらっぱ［竹原みらい地図］

本ビジョンに掲げる取組を実施しすることで、中心市街地でいろいろな“セッション”が生まれ、まち全体が盛り上がり、周辺へ波及していく様子を『たけはらっぱ［竹原みらい地図］』として取りまとめました。



4. ビジョンの実現に向けて

■官民連携による推進の考え方

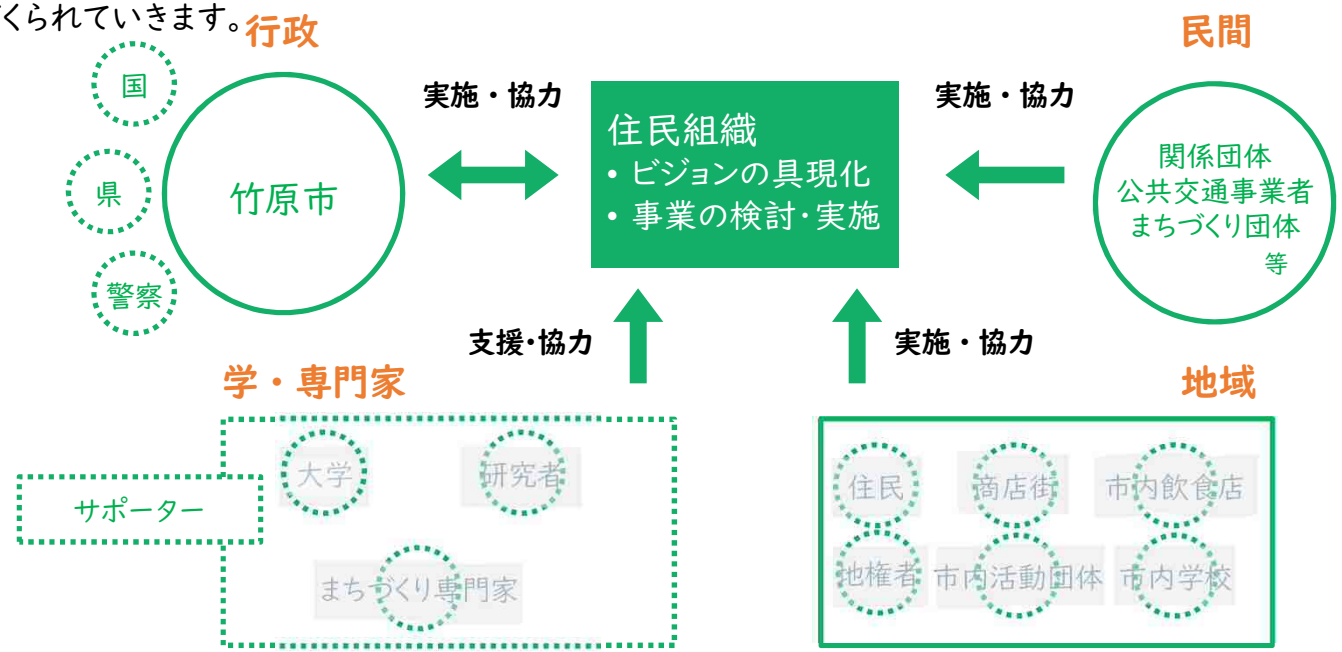
ビジョンの実現にあたっては、地域、民間、学・専門家、行政の各主体がそれぞれの強みを活かしながら、連携して取り組んでいく必要があります。

組織づくりのポイント

主体性	まちづくり勉強会のような**取組を主体的に担える**こと
自立性	活動に必要な**資金を自ら調達・負担できる**こと
代表性	地域のまちづくりを先導する組織として**地域に認められる**こと
継続性	まちづくりを担う人材を確保し、**継続的に活動**できること

組織体制

それぞれのメンバーは活動計画の検討や実施を担い、本ビジョンの具現化を推進します。学識経験者や専門家はサポーターとなって組織の活動を支援します。こうした様々な力が集まって互いの力を補いながらまちを運営していくことで、持続可能な組織が形づくられていきます。



4. ビジョンの実現に向けて

■今後の推進体制

地域 （市民）	市民は、まちづくりの主体としての認識を持ち、自主的にまちづくりに協力していくとともに、行政等が発信するまちづくりに関する情報について、積極的に取得するよう努めます。 また、自らが住む地域に関心を持ち、相互に情報の共有に努めながら、地域活動に積極的に参画し、大学・企業、各種団体や行政等と連携しながら地域課題の解決に向けた取組や地域コミュニティの活性化に努めます。
民間事業者	中心市街地地区には民間事業者が集積していることから、エリアを構成する主体の一員として地域(市民)や行政と連携し、地域活動や交流、地域課題の解決に向けた取組に積極的に参画するよう努めます。 その際は、知識やノウハウ、人材、施設、ネットワーク等を魅力的で持続可能なまちづくりに生かしていきます。
学・専門家	学・専門家は、知見やネットワークを活用し、地域・民間事業者、行政が行うまちづくりの取組に助言や技術支援の提供に努めます。また、地域の現状や課題を専門的に分析し、データに基づくまちづくりの方策や社会実験等の提案を行うとともに、学術的な理論や客観的な論評にとどまることなく、地域活動や企業、各種団体、行政等と連携しながら、地域課題の現実的な解決に取り組みます。
行政	行政は、中心市街地地区におけるまちづくりの推進を図るための総合的な計画を策定し、施策を実施するとともに、社会情勢や市民等の意向を的確に把握し、まちづくりの施策に反映することとします。 また、まちづくりに関する計画や施策の情報を市民や民間事業者等に提供し、まちづくりへの市民の理解と参画を促すとともに、市民のまちづくり活動への助言や支援、民間事業者と連携した活動の促進に努めます。

4. ビジョンの実現に向けて

市民の取組（イメージ）

学校終わりや休みの日に友だちを誘って公園に遊びに行こう!

道路もきれいになったし、歩いてお出かけに行ってみよう。

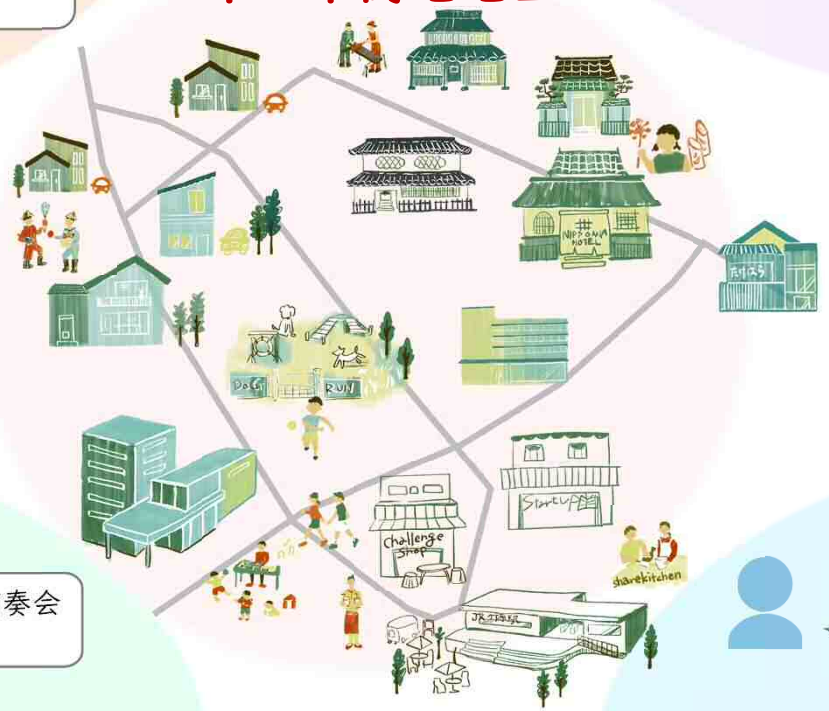
新開地区周辺

新しい交流スペースで竹原のまちの歴史や伝統について来訪者に教えてあげよう。

地域の人にも来訪者の人にも元気に挨拶をしよう。道に迷っている人に案内してあげよう。

町並み保存地区周辺

中心市街地地区



取り組みの輪を

拡げよう♪

竹原市役所周辺

隣の家のおじいちゃんが複合施設で演奏会をするから見に行ってみよう。

自分の趣味の料理をみんなにも教えてあげたいから、料理教室を企画してみよう。

竹原駅周辺

新しくカフェがオープンしたから、友達とおしゃべりしながらゆっくり過ごそう。

自分の空き店舗で新しくお店を始めたい人がいるから、貸してあげよう。

4ビジョンの実現に向けて

■ビジョンの実現に向けたロードマップ

	短期 2025年-2027年	中期 2028年-2034年	長期 2035年～
竹原市役所周辺エリア	複合施設の設計・整備・運営 新たな民間機能の誘導 複合施設を活用する人材育成	市民が主体となった複合施設の積極的な活用 フレイル対策・食育等、市民の健康増進 市民の防災意識醸成による防災・減災対策の推進	
竹原駅周辺エリア	竹原駅・駅前広場の活用検討 継続的なまちづくり活動 空き店舗や低未利用地を活用した市民や学生、事業者がチャレンジできる環境と新たな交流の創出	新たなモビリティの導入検討 都市再生推進法人への発展	
町並み保存地区周辺エリア	民間活力による既存施設の活用検討・改修 観光プロモーション事業の実施 歴史・文化・芸術の体験空間の創出 コンシェルジュの育成		
新開地区周辺エリア	土地区画整理事業の推進 公園の整備 シンボルロードの修景・緑化の検討や整備 安全な歩行空間の確保	まちなか居住の推進や更なる都市機能の集積	
回遊性向上	歩行者回遊軸の検討・設定 誘導看板やストリートファニチャー等の設置・歩道整備やバリアフリー化 回遊性向上に向けたイベント等の実施	新たなモビリティの導入検討	

※本ロードマップは、策定時の目標として設定したものであり、今後の検討や実証実験の成果等を踏まえ、変更することがあります。

竹原中心市街地地区まちづくりビジョン

令和7（2025）年3月31日

発行：広島県竹原市
編集：竹原市企画部企画政策課公共施設再整備担当
〒 725-8666 広島県竹原市竹原市中央五丁目6番28号
TEL 0846-22-1568（企画部企画政策課公共施設再整備担当）
FAX 0846-22-1113